

令和2年度 学校の運営状況に係る自己評価【通常の学級】①(表中の数値は肯定的回答率)

項目	質問内容	教員	生徒			保護者		
			1年生	2年生	3年生	1年生	2年生	3年生
1 学校生活全般	子どもの学校生活は、全体として満足できるものである。 昨年度は1年生：87.5%、2年生：68.9%、3年生：82.0%でした。どの学年も肯定率が7割を切る状況はなくなつたが、次年度は全学年の保護者から8割以上の肯定的回答をいただけることを目指します。	---	---	---	---	75.8%	83.1%	71.4%
2 一貫教育 異校種の協働	連携する小・中学校による小中一貫教育（小・中学校の教員による協働授業、児童・生徒の交流など地域活動への参加等）が進められている。 【教員】各教科等において、義務教育9年間を見据えた一貫性のある学習指導計画を作成している。 昨年度は保護者の肯定率は全体で49%であったが、大きく数値が下がる結果となりました。教員の肯定率も6割台であり、課題点として捉える項目です。今年度については、新型コロナウイルス感染症防止の観点で、児童・生徒が直接連携した教育活動を行うことができなかつたことが大きく影響していると思われます。次年度は、コロナ禍であっても小中一貫教育を推進し、児童・生徒自身にも見える形として実行していきます。	65.5%	---	---	---	31.8%	40.3%	36.5%
3 学校評価	学校は、自校の教育活動に関する評価結果とそれに基づく改善策等の情報を提供している。 【教員】学校の教育目標や目指す児童・生徒像、特色ある教育活動や教育課程などについて、学校評議会や学校運営協議会、学校関係者評価委員会で協議している。 教職員向けの学校評価については、項目ごとに数値化できる形式を取り入れました。また、管理職から教職員に学校運営協議会での承認までの協議の進捗状況等を伝えているため、教職員の肯定率は高くなりました。保護者に向けては、これまででも2月に教育活動に関する評価結果並びに改善策等の情報提供を行っていますが、杉並区教育調査の回収時期が12月であることが肯定率が低くなる原因と考えています。また、昨年度までの学校評価が学校ホームページに掲載されていなかったことも肯定率の低さの原因と考えています。学校ホームページにおける学校評価の情報発信と、学校評価の時期に学校ホームページから前年度の学校評価を参考にすることを周知します。	86.2%	---	---	---	43.9%	60.4%	50.8%
4 学級経営	学校では、子どもが安心・安全な学校生活を送ることができる学級づくりを行っている。 【教員】学級活動や学校行事を通して、生徒の自己肯定感を育むための「居場所づくり」と「絆づくり」を意識している。 昨年度の生徒の肯定率は1年生：91.4%、2年生：80.9%、3年生：93.0%でした。H30はどの学年も70%台であったことから、学級経営への生徒の肯定率は上昇傾向にあると考えられます。しかし、生徒の肯定率に比べ保護者の肯定率は全体で77%であり若干低い傾向があります。今年度はコロナ禍のため、各学年ともに1回の保護者会・学級懇談会しか開催することはできませんでしたが、次年度に向けてオンライン懇談会ができる環境を整え、今年度中に試行します。	93.8%	85.2%	88.7%	82.1%	73.5%	83.1%	74.6%
5 個に応じた指導	授業では、自分の得意なところを伸ばしたり、苦手なところを少なくしたりできるように、個別に教えてくれている。 【教員】学び残しやつまずきを減らし、全ての児童・生徒の学力を向上させるための授業を行っている。 教員の肯定率は8割を超えていましたが、生徒の肯定率は6割前後に留まっています。今後は、1人1台のタブレット端末を活用した授業を行っていきますが、その中で個別最適化された授業を行うことができるよう教員の指導力やICT活用能力を高める必要があると考えています。	86.2%	62.5%	59.6%	53.0%	---	---	---
6 学習成果の実感	子どもは、学校の授業を通して、分かることやできることが増えている。分かることを心がけている。 【教員】授業改善を日々心掛け、生徒が学習内容を理解しやすいように工夫している。 昨年度の生徒の肯定率は1年生：91.4%、2年生：77.9%、3年生：90.4%でした。教員の授業改善と、授業規律の徹底の成果として、生徒の肯定率が8割を切ることはなくなつたと捉えています。教員の肯定率の高さに比べて保護者の肯定率が高くなはないのは、コロナ禍のため授業参観を実施することができなかつたことが大きな要因と捉えています。次年度に向け、コロナ禍であっても授業参観ができるよう工夫します。	93.8%	87.5%	85.4%	82.1%	73.5%	75.3%	65.9%
7 学習評価	学校は、子どもの学習状況を適正に評価している。 【教員】生徒の学力や学習の達成度を適切に評価している。 昨年度の生徒の肯定率は1年生：85.5%、2年生：61.0%、3年生：81.6%、保護者の肯定率は1年生：71.0%、2年生：48.1%、3年生：52.3%でした。教員の肯定率は極めて高いことから、評価・評定のカウンセリング機能とガイダンス機能をより一層意識した対応をすることで、評価評定の妥当性と信頼性を高めることができますと捉えています。	96.9%	72.7%	86.0%	72.4%	66.7%	62.3%	48.4%
8 教材教具（ICT）	学校は、ICT機器（電子黒板やデジタル教科書等）を活用した授業を行っている。 【教員】各教科等において、ICT機器（電子黒板やデジタル教科書等）を活用した授業を行っている。 昨年度の生徒の肯定率は今年度と同様に高く、保護者の肯定率は1年生：64.8%、2年生：52.8%、3年生：54.1%でした。教員はほぼ毎時間デジタル教科書を使用したり、プレゼンテーションソフトを活用した授業を行ったりしているため、生徒の肯定率は高いものと考えます。しかし、コロナ禍におけるオンライン授業については、環境面や制度面等の課題があり、なかなか実施できなかつたこと、授業参観を実施できなかつたことが保護者の肯定率が低くなつた要因と捉えています。次年度は国が示すGIGAスクール構想に沿って一人1台タブレット端末の活用を有効の高いものとすることが大きな課題です。	96.6%	94.5%	98.7%	86.6%	47.7%	53.9%	47.6%
9 系統的・連続的指導	先生は、今の授業で学習していることが、前の授業や今後の授業とどのようにつながっているか、教えてくれている。 【教員】学習指導要領に基づく各教科等の目標や内容の系統性を理解し、学年や小・中学校の接続を踏まえた授業を行っている。 昨年度の生徒の肯定率は1年生：70.4%、2年生：58.1%、3年生：70.2%でした。昨年度から各教科の授業において既習事項を活用するスパイラル学習を推進していますが、評価結果としては昨年度並みの結果となりました。教員の肯定率も8割に達していないことから、次年度に向けて、さらに系統性や連続性を意識した授業を展開する必要があると考えています。	79.3%	62.5%	70.2%	58.2%	---	---	---
10 道徳教育	子どもは、学校での生活を通して、他者と共によりよく生きるために力が育まれている。 【教員】生徒は授業・生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 特に2年生の保護者からの肯定的評価が高くなりました。どの学年も計画的に工夫して道徳授業を行っていますが、2年生の肯定率が高くなつたのは、学年通信等を通じた情報発信が一つの要因であると捉えています。道徳の授業における生徒の活動を、学年通信以外にも保護者の方々に発信できるように工夫していきます。	81.3%	73.4%	74.8%	59.4%	78.8%	84.4%	73.0%
11 体育・健康教育	子どもは、学校での生活を通して、体力や食、生活習慣をはじめ健康な生活を送る力が育まれている。 【教員】食育（給食含む）や健康的な運動増進、感染症の予防に関する指導を適切に行っている。 生徒、保護者ともに概ね7割以上の肯定率となりました。体育・健康教育に向けた関心をより高めるために、保健体育や家庭科をはじめとする授業、給食、学級活動、学校行事など様々な場面を捉えて基本的生活習慣の確立をはじめ、体育・健康教育を推進してまいります。	100.0%	76.6%	74.8%	69.4%	78.0%	76.0%	70.6%
12 特別支援教育 研修・理解啓発	学校は、子どもたちの発達に関する課題など、障害理解を深める情報を提供している。 今年度については、障害理解を深めることに特化した本校からの情報提供は行っていないことから肯定率は低くなつたと捉えています。次年度については、特別支援教室拠点校並びに難聴学級併設校の強みを生かし、年度当初に特別支援教育に係る生徒・保護者向け理解・啓発授業を実施する計画を立てています。	---	---	---	---	23.5%	33.8%	31.0%
13 地域と共に 在る学校	学校は、家庭や地域と連携・協力して教育活動を行っている。 【教員】授業や教育活動において、地域の人材を計画的に活用している。 昨年度は、生徒の肯定率が1年生：66.4%、2年生：37.5%、3年生：60.2%、保護者の肯定率は1年生：73.1%、2年生：64.8%、3年生：65.8%でした。今年はコロナ禍のため、特に地域と連携した行事は中止せざるを得ない状況となりました。しかし、学校支援本部や地域連絡協議会の方々が、本校の生徒のために工夫して様々な活動を行ってくれています。これからも、学校だよりや学校ホームページを通じて情報発信していきます。	79.3%	41.4%	56.3%	44.0%	63.6%	64.3%	60.3%
14 学校経営	学校は保護者との連携を密に取り、相互理解を進めると共に、保護者との協力関係を築いている。 【教員】保護者との連携を密に取り、相互理解を進めると共に、保護者との協力関係を築いている。 教員と保護者の方々の肯定率が大きく異なる項目となりました。今年度は学級懇談会を短時間で1回しか開催することができなかつたため、保護者の方々が担任をはじめとする教員に相談することを躊躇する状況が生まれたのかもしれません。次年度は、コロナ禍が継続したとしても定期的な学級懇談会等ができるよう、オンライン保護者会の試行を始めます。	96.6%	---	---	---	48.9%	64.3%	49.2%
15 生活指導体制	いじめや不登校などに対して、未然防止、早期発見、解決に向けて、教員が協力してとりくんでいる。 【教員】生徒理解を深め、組織的に不登校の予防、いじめの早期発見・解決に努めている。 教員と保護者の方々の肯定率が大きく異なる項目となりました。定期的に実施されるふれあい（いじめ防止）調査だけでなく、日頃から生徒間の情報を教員が共有し、早期解決に向けて日々取り組んでいます。次年度に向けては、生徒の「居場所づくり」と「絆づくり」を意識した教育活動を展開し、生徒の自己肯定感を育むことを通し、いじめや不登校の未然防止にも努めてまいります。	90.6%	71.9%	73.5%	61.9%	28.6%	33.8%	34.1%
16 インクルーシブ 教育	学校は、障害など、参加に困難さを抱えている子どもたちも、みんなと一緒に活動できる配慮や工夫をしている。 【教員】児童・生徒や保護者から障害等への合理的な配慮が求められた場合、校内委員会で検討し、実施に努めている。 どの学年においても、「回答不能」の割合が一番高い項目となりました。教員としては、校内委員会で情報共有するだけでなく、ケースに対する対応策を検討して指導を行っています。困難さを抱えている子どもたちへの配慮事項は、生徒や保護者の方々には見えにくいくらいだと思いますが、これからも一人一人の生徒への丁寧な対応を心がけていきます。	86.2%	26.6%	15.9%	13.4%	30.1%	24.8%	25.4%

令和2年度 学校の運営状況に係る自己評価【通常の学級】②(表中の数値は肯定的回答率)

項目	質問内容	教員	生徒			保護者		
			1年生	2年生	3年生	1年生	2年生	3年生
17 危機管理	学校での生活を通して、子どもに、地震や火災など、様々な危険を予測し、回避する力が育まれている。 【教員】学校での生活を通して、子どもに、地震や火災など、様々な危険を予測し、回避する力が育まれている。 学校では、計画的な避難訓練や安全指導を行っていますが、今年度はコロナ禍のため一齊に会することができず、内容を工夫する必要がありました。次年度も、生活指導部を中心とし、コロナ禍にも適応する計画的な避難訓練、安全指導を実施していきます。	93.1%	77.3%	84.1%	73.9%	44.4%	63.4%	57.9%
18 特色ある教育	自校の特色ある教育活動（アンネのバラ、赤ちゃんふれあい体験、朝学習など）は、子どもたちの成長により効果をもたらしている。 【教員】学校の特色ある教育活動（アンバラ、赤ちゃんふれあい体験、オリパラなど）の目的を理解し、積極的に取り組んでいる。 学校支援本部の方々やアンネのバラサポーターズの皆様の多大なるご協力をいただき、本校の特色ある教育活動を展開することができます。コロナ禍のため、一部中止したり、縮小したりしましたが、可能な限り工夫して実施しました。次年度以降も、継続して特色ある教育活動を開発しますが、これらの取組が当たり前にできているわけではないことを、生徒や保護者にもPRするように工夫していきます。	89.7%	63.3%	64.9%	54.5%	66.2%	72.1%	69.8%
19 進路指導	学校は子ども一人一人の興味や関心、適性に応じて進路選択ができるように、細かい情報提供を行っている 【教員】進路指導の年間指導計画に沿って指導を進めることができたため教員の肯定率は高くなりました。しかし、特に3年生の保護者の皆様から、上級学校進学に向けた情報が少ない旨の指摘を受けております。生徒の肯定率も5割前後に留まっていることから、保護者や生徒が求める情報が何を明らかにし、本校としてできることと、家庭で行うことの区別ができるようにする必要があると捉えています。	82.8%	43.0%	56.3%	57.5%	21.8%	34.0%	34.9%
20 総合的な学習 キャリア学習	職場体験やキャリアガイダンス、高校出前授業などは、子どもの生き方や将来を考えるのに役立っている。 【教員】総合的な学習の時間や、キャリア学習は、生徒たちが将来の生き方や進路を考える上で役に立っている。 コロナ禍のため、職場体験や高校出前授業等は中止せざるを得ませんでした。キャリアガイダンスは3学期に2回実施しましたが、本アンケート回収時には未実施であったため、生徒・保護者ともに低い肯定率になったとも捉えています。次年度に向けて総合的な学習の時間の「高井戸モデル」を示し、本校として総合的な学習の時間に学ぶ軸をつくる準備をしています。	82.8%	50.0%	70.2%	54.5%	35.3%	39.0%	57.9%
21 学校行事	学校行事（体育大会・学芸発表会など）は、子どもの学校生活が充実することにつながり、成長に役立っている。 【教員】学級活動や学校行事を通して、生徒の自己肯定感を育むための「居場所づくり」と「絆づくり」を意識している。 コロナ禍であり、学年ごとではありますが体育大会を実施することができました。学校行事は子どもの学校生活の充実に深く関係するものと捉えています。次年度も感染予防が必要な状況が継続することが予想されますが、今年度の経験を生かし、工夫して学校行事ができるようにしていきます。	93.8%	65.6%	82.8%	73.1%	77.4%	82.5%	74.6%
22 部活動	学校の部活動は、そのねらい（望ましい人間関係、個性の伸長など）が達成され、子どもの成長に役立っている。 【教員】学校の部活動は、その目的を理解し（望ましい人間関係の構築、個性の伸張など）生徒の成長を願って、取り組まれている。 コロナ禍のため今までと同様の活動をすることができず、活動期間や内容も制限せざるを得ない状況となりました。部活動の活動の様子を保護者の方々に参観していただくことも僅かな機会となっていました。次年度もこれまで通りの部活動を行うことは難しいかもしれません、顧問が部活動の目的を理解した指導を行い、保護者の方々の理解を得て運営することができるよう努めてまいります。	82.8%	67.2%	73.5%	65.7%	69.2%	72.7%	64.3%
23 自己肯定感	家庭において、子どもの自己肯定感を高めることを意識している 【生徒】学校生活全般を通じ、先生は自分の行動を認めてくれている。 【教員】教育活動全般を通じ、生徒の自己肯定感を高めることを意識して指導している。 次年度の教育課程編成に向け、重点目標を「生徒の自己肯定感の向上」と定めたことからこの項目を調査項目として取り上げました。保護者、教員とも7、8割以上は自己肯定感を高めることを意識していると回答していますが、生徒の肯定率は5～6割になっているのが現状です。中学生期は多感な時期であり、日本国民の特性として自己肯定感を向上させる難しさはあると考えます。しかし、「大人が自分の行動を認めてくれる」や「褒めてくれる」などの質問項目については、生徒が肯定的に評価できるように大人が意識していきたいものです。	82.8%	57.0%	68.9%	53.7%	73.7%	76.0%	70.6%
24 あいさつ	子どもは日常の学校生活を通して、あいさつする事が身についている 【教員】日常の学校生活を通して、あいさつすることを指導している。 あいさつについては、今年度当初に目標として掲げ、生徒にも朝礼などを通じて呼びかけてきました。少しずつあいさつできる生徒が多くなっていることが感覚的にも分かるようになっています。生徒、保護者共に比較的高い肯定率ではありますが、次年度は生徒会活動等でもあいさつを取り上げ、さらに自主的なあいさつが増えるようしていきます。	86.2%	78.1%	85.3%	79.9%	75.2%	77.9%	72.2%
25 情報発信	学校だより、学年通信、学校ホームページなどで、学校の様子がよく分かる 【教員】学校だより、学年通信、学校ホームページなどで、学校の様子を積極的に伝えている 昨年度は学校ホームページの更新は外部人材であるICTサポーターが行っており、教職員が更新作業を行うことはなかったため、更新回数も限られていました。今年度は、コロナ対応として学校ホームページを活用した情報発信は必須であるため、プロジェクトチームを立ち上げ、更新できる環境を整え、7月以降は毎日、学校ホームページを更新しています。次年度に向けては、学年通信を含む学校からの配付物についても学校ホームページに掲載することができるようになり、情報のデジタル化を進めていくことも課題と捉えています。	93.1%	59.4%	66.9%	54.5%	70.7%	79.2%	72.2%
26 新型コロナウイルス 感染予防対策	学校では、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じたうえで教育活動が行われている 【教員】新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じたうえで、教育活動を行なうことができている 時期を見て、保護者宛て通知文を作成し、本校のコロナ対応を周知していました。生徒一人一人の感染予防に対する認識と行動に差はありますが、生徒が感染防止への意識を高め行動することができるよう継続して指導していきます。今年度の1月に保健給食委員会が中心となり、Withコロナチェックを行いました。このように、生徒の自主的な活動にも感染症予防対策を落とし込むことで、より一層の啓発につなげたいと考えています。	100.0%	77.3%	84.8%	73.9%	78.9%	79.2%	71.4%
	今年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため、緊急事態宣言から始まり、予定しておりました教育活動の多くが中止や規模縮小して実施するなどの状況となりました。授業参観や保護者会など、保護者の方々に本校にご来校いただき、生徒の様子や教育活動の様子を見ていた機会が少なくなり、アンケートで答えにくい項目もあったかと思います。現に、「回答不能」の割合が全体としても高かったですが、特に1年生の保護者の方々の「回答不能」の割合が高かったです。制限することが多い中でも子どもたちは「新しい生活様式」のなか、「やれることは精一杯努力する」を目指し、学校生活を送っていました。本校としても今年一年、新しいこと（オンラインやリモート）にも積極的に挑戦し、その中で課題を見付け、課題解決に向けて取り組むことができました。今までとは違った授業のやり方や、精選した学校行事の中から新たな可能性を見付けることもできました。この経験を来年度からの教育課程編成にも生かしていきたいと考えています。 次年度より本校では、学級活動や学校行事での生徒の自己肯定感を育む「居場所づくり」と「絆づくり」を目標に教育活動を行ってまいります。来年度は、この点について生徒や保護者の皆様から肯定的な評価をいただけるよう教職員一同努力してまいります。ぜひ、ご家庭でもご理解とご協力をお願いいたします。							

令和2年度 学校の運営状況に係る自己評価【特別支援教室】(表中の数値は肯定的回答率)

項目	質問内容	教員	生徒			保護者		
			1年生	2年生	3年生	1年生	2年生	3年生
1 個に応じた指導	特別支援教室で、子どもは、能力や特性に応じた目標の設定や手立てにより、成長の可能性が広がっている。 【生徒】特別支援教室の授業では、自分の得意な部分を伸ばしたり、苦手なところを少なくしたりできるように、先生が自分用の教材や教具を用意してくれている。 【教員】個別指導計画に基づいて一人一人の障害特性に応じた学習目標と指導の手立てを設定し、確実に力を積み上げていくための授業を行っている。 全体を通じて概ね高い肯定的評価となりました。次年度に向けても、生徒一人一人の特性に応じた対応を図っていきます。	100.0%	100.0%	100.0%	50.0%	100.0%	75.0%	100.0%
2 学習の成果	【生徒】特別支援教室での授業によって、分かることやできることが増えている。 【教員】回答した生徒数が少ないため、特に1年生においては肯定率が0%となりました（1年生は「どちらでもない」に回答）。子どもたち自身が特別支援教室での授業によって「分かることやできることが増えた」となるよう、指導のねらいを確認することはもとより、指導の終盤にねらいに対する振り返りを必ず行うことで実感につなげていきます。	---	0.0%	100.0%	50.0%	---	---	---
3 学習評価	特別支援教室では、子ども個々に設定された学習目標の達成度合いについて、適正な評価を受けている。 【生徒】特別支援教室の先生は、授業で自分ができたことを讃めてくれたり、間違えたところを教えてくれたりしている。 【教員】個別指導計画に基づく学習目標に応じた評価規準を設定し、学習状況を評価している。 毎回の授業ごとに「学習の日誌」を作成し、「学習のめあてと内容」、「本人の学習の達成度と感想」に加え、巡回指導員、担任からのコメント、授業風景の写真も添えて保護者の方々に情報提供しております。本日誌に保護者の方々からのコメントを記載してもらい学校に返却することで、学びの教室での学習状況の共有を図っています。次年度も継続して実施していきます。	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	33.0%	100.0%
	今年度は、特別支援教室の運営が組織的かつ計画的になるよう、運営面での改善を行いました。対象となる生徒の担当者を明確にし、保護者の方々からの相談を受けやすいようにしました。本校の巡回指導教員の巡回校の教員からの年度末反省における運営面の評価も、概ね9割前後の肯定的回答を得ています（質問項目「学びの教室の教員と専門員と学級担任の連携」「担当制の指導」「年間指導目標と毎日のめあてを設定した指導」「日誌ファイル形式の報告」等）。次年度に向けても、今年度の運営面での改善を継続実施し、反省点を生かした上で通常の学級と特別支援教室との連携を強め、巡回指導教員の専門性を生かした教育的配慮ができるようにしてまいります。							